

環境活動レポート

2010年度

2009.10~2010.9



株式会社 新宮商行

銭函工場

2010.11.30発行

1. 組織の概要

事業者名	株式会社 新宮商行
代表者名	代表取締役社長 坂口 栄治郎
所在地	
本社	北海道小樽市稲穂2丁目1-1 TEL 0134-24-1311(代) FAX 0134-22-8717
東京支社	東京都江東区東陽2丁目4-2 新宮ビル5階 TEL 03-3649-7131(代) FAX 03-5690-7057
札幌支店	北海道札幌市西区琴似2条7丁目2-1 TEL 011-644-1011 FAX 011-643-1296
大阪支店	大阪市吹田市垂水町3丁目33-29 TEL 06-6380-0401 FAX 06-6368-2006
東京事業所	千葉県松戸市稔台6丁目7-5 TEL 047-361-4701(代) FAX 047-362-0157
銭函工場	北海道小樽市銭函2丁目32-1 TEL 0134-62-2011 FAX 0134-61-2011
釧路工場	北海道釧路市新釧路町3-2 TEL 0154-22-0225 FAX 0154-22-2372
竜ヶ崎物流センター	茨城県竜ヶ崎市泉町1991-1 TEL 0297-64-2150 FAX 0297-60-1073
東北営業所	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南3丁目10-14 TEL 019-637-2651 FAX 019-632-2229
名古屋営業所	愛知県名古屋市名東区上社5丁目203 TEL 052-702-2929 FAX 052-709-1513
福岡営業所	福岡県福岡市博多区半道橋1丁目2-1 TEL 092-473-1501 FAX 092-415-3696
郡山出張所・商品センター	福島県郡山市喜久田町卸1丁目37-1 TEL 024-956-6212 FAX 024-963-0142
高知出張所	高知県高知市大津甲515-1 TEL 088-878-5400 FAX 088-878-5401
新宮山林事務所	和歌山県新宮市三輪崎756 TEL 0735-31-7007 FAX 0735-31-8009
ホームページアドレス	http://www.shingu-shoko.co.jp
事業内容	社有林の経営及び管理、木材製品の製造販売、木質住宅部材並びに防腐加工材の製造販売 農業機械、園芸機械、産業機械、木材機械及び薪ストーブの輸入並びに製造販売
資本金	250,000 千円
従業員	254名
売上高	716,621 万円 (2009年度)

2. 対象範囲

認証取得事業所

事業所名	株式会社 新宮商行 銭函工場
事業所代表者名	取締役 銭函工場工場長 阿部 一二
所在地	北海道小樽市銭函2丁目32-1
環境管理責任者及び連絡先	環境管理責任者 大江 秀章
連絡先	TEL番号 0134-62-2011 FAX番号 0134-61-2011 mailアドレス zp@shingu-shoko.co.jp
事業内容	木材・木製品の加工製造 (化粧ばり造作用集成材、造作用集成材、階段材、木製窓、内装ドア、 間仕切りパネル、プレカット材 等)
事業の規模	売上高 1,387 百万円 (2009年度) 従業員数 110 人 床面積 27,697 m ² 敷地面積 115,100 m ²

認証取得予定事業所

2011年度 更新審査時

事業所名	管理責任者 担当者	従業員数	床面積 m ²	事業内容
本社 (全社統括)	白石 常務 平賀 課長	23	943	経理・総務事務全般、木材輸入貿易事務一般、ネット通販全般、社有林の管理・育成、農林業機械・園芸機械の営業・販売、大型林業機械の営業・販売
東京支社	宮園 副部長 平山 部長代理	13	456	木材・建材・塗料 等の営業・販売 営業事務・経理事務全般
東京事業所	本間 部長 山本 課長	46	3,391	農林業機械の開発設計・技術改良、農林業機械・薪ストーブの輸出入、大型林業機械の営業・販売、農林業機械・園芸機械の営業・販売、総務・経理事務一般
大阪支店	江口常務 高橋 所長	13	314	木材・建材・塗料 等の営業・販売 農林業機械・園芸機械の営業・販売
新宮山林事務所	池田 部長 坂口 所長	2	55	社有林の管理・育成

認証取得予定事業所

2012年度 中間審査時

事業所名	管理責任者 担当者	従業員 数	床面積 m ²	事業内容
札幌支店	渡辺 部長 勝木 課長代理	7	402	木材・建材・塗料 等の営業・販売
竜ヶ崎物流 センター	平山 部長代理 石川	4	2,730	銭函工場生産製品の物流全般
東北営業所	渡部 所長 川守田	5	784	農林業機械・園芸機械の営業・販売
郡山出張所 商品センター	千葉 所長 青柳	8	931	農林業機械・園芸機械の営業・販売 商品配送、在庫管理
名古屋営業 所	吉本 所長 山田	6	325	農林業機械・園芸機械の営業・販売
福岡営業所	柴田 所長 大家	6	388	農林業機械・園芸機械の営業・販売
高知出張所	高橋 所長 高橋	2	101	農林業機械・園芸機械の営業・販売

2013年度 更新審査時

事業所名	管理責任者 担当者	従業員 数	床面積 m ²	事業内容
釧路工場	渡辺 部長 木村 工場長代理	9	2,142	防腐製材等の製造・販売

※ 2010年9月30日 現在

2010年10月より、実施体制を構築し、北海道エリア、関東エリアでコンサルティングを実施。認証範囲拡大に向けて準備中です。

3. 環境方針

環境方針

<基本理念>

株式会社 新宮商行 錢函工場は、我々が生まれ育った地球存続のために環境保全活動は経営の重要課題として位置づけ、木材製品等の加工製造事業活動を通じ、全員参加で環境に負荷をかけている因子を継続的に削減することに努めます。

<行動指針>

1. 環境目標を設定し、定期的に見直しを行い、継続的に環境経営システムの改善に取り組みます。
2. 環境に関する法規制、条例、及びその他の要求事項を遵守します。
3. 当工場の事業活動による環境への影響を十分考慮し、次の項目を重点課題として環境目標を定め、環境の改善へ取り組みます。
 - (1) CO₂の排出量の削減を行う。
 - (2) 廃棄物排出量の削減を行う。
 - (3) 総排水量(水資源投入量)の削減を行なう。
 - (4) 化学物質の適正管理に努め、使用量の抑制を行う。
 - (5) 紙の使用量の抑制を行う。
 - (6) グリーン購入対象製品、認証材の積極的購入。
 - (7) 当工場で生産・販売・提供する環境配慮製品の促進
4. 地域社会における環境保全活動に積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
5. 環境活動達成のため、環境教育・訓練、社内掲示活動を展開し、全構成員に周知徹底します。
6. 環境方針・活動結果について環境レポートを通じ一般に公表します。

制定 2005年 5月6日

改定 2010年 10月12日

株式会社 新宮商行

錢函工場工場長

阿部一二

4. 2010年度環境目標 中期目標(2009年制定/2010年改訂)

項目	基準年	単位	基準値	目標値		
				2010年度	2011年度	2012年度
二酸化炭素排出量	2009年度	kg-CO ₂ /千円	0.697	0.690	0.683	0.676
			(削減率)	1%削減	2%削減	3%削減
廃棄物排出量	2007年度	kg/千円	7.83×10^{-2}	7.60×10^{-2}	7.52×10^{-2}	7.44×10^{-2}
			(削減率)	3%削減	4%削減	5%削減
水資源投入量	2009年度	m ³ /千円	6.42×10^{-3}	6.23×10^{-3}	6.16×10^{-3}	6.10×10^{-3}
			(削減率)	3%削減	4%削減	5%削減
新規購入紙削減	2009年度	m ²	35,224	33,463	32,758	32,406
			(削減率)	5%削減	7%削減	8%削減
環境配慮型製品の 販売促進 木製窓	2009年度	百万円	102		143	163
			(増加率)		40%増加	60%増加

項目		目標値		
		2010年度	2011年度	2012年度
グリーン購入品の購入	グリーン購入対象品	5品目以上	5品目以上	5品目以上
	認証材購入 購入比率	90%以上	90%以上	90%以上
化学物質使用量削減			適正管理	適正管理

※上記二酸化炭素排出量における購入電力の排出係数は、エコアクション21 2004年版の0.378kg-CO₂を使用

※新規購入紙削減の目標単位を2010年度に千円からm²に変更

※中期目標に環境配慮型製品の販売促進、化学物質使用量削減を追加

5. 主な環境活動計画

5.1 二酸化炭素排出量削減

- 休憩時間・無作業箇所の消灯
- 清掃に使用するエアーを最小限にする(コンプレッサー負荷低減)
- 製造機械の空転をなくする
- 消費電力の大きい機械(容量10kWh以上)の稼働率適正化、使用時間の記録
- 事務所の暖房器具の設定温度21℃
- 工場内 リフトのアイドリングストップ
- 木焚きボイラー運転増加による重油ボイラー使用時間の削減
- 外出時にJR等の公共機関を利用し、社有車使用減の検討

5.2 廃棄物削減

- 塗着効率の高い塗装機器導入
- 塗装ブース廃液(汚泥)は乾燥し固形物化して廃棄
- 塗料・接着剤は必要量を配合し廃棄量を少なくする
- 梱包荷姿を見直し、梱包作業での排出部材を少なくする
- 購入先にも梱包荷姿の協力を依頼する

5.3 水資源投入量削減

- ホイラのドレン水を接着剤スプレッター、塗装ブースに利用する
- ホイラの運用・稼働の適正化

5.4 新規紙購入量削減

- 裏紙の活用、両面コピーの多用化
- コピー使用回数を削減

5.5 グリーン購入品の購入

- グリーン購入品目の達成を毎月実施
- 購入先への証明書・認定書の写し発行依頼

6. 環境目標の実績・環境活動計画取り組みの評価

6.1 環境目標実績一覧（2010年度及び過去2年度）

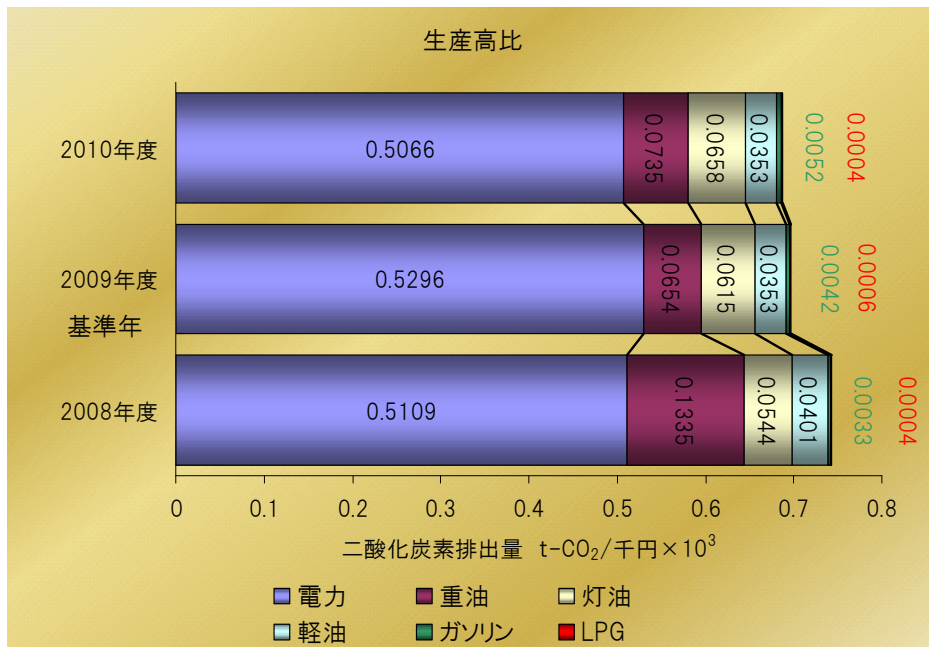
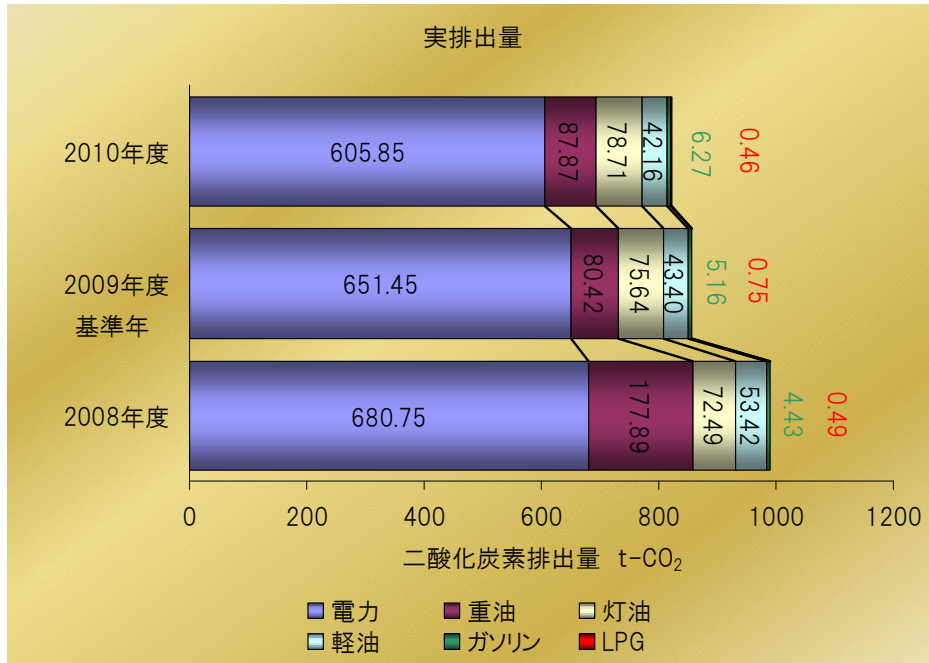
項目		年度				削減率 % (対BM)	評価
		2007年度 廃棄物 BM	2008年度	2009年度 二酸化炭素 水資源 BM	2010年度		
二酸化炭素排出量 ※1	実数(kg-CO ₂)		989,581	856,815	821,318	-4.1	○
	1%削減(生産高)	生産高比(kg-CO ₂ /千円)	0.743	0.697	0.687	-1.4	
廃棄物排出量	実数(t)	127.91	90.79	111.73	127.33	-0.5	×
	3%削減(生産高)	生産高比(kg/千円)	7.83×10^{-2}	6.81×10^{-2}	9.08×10^{-2}	10.64×10^{-2}	
水資源投入量	実数(m ³)		9,571	7,896	7,709	-2.4	×
	3%削減(生産高)	生産高比(m ³ /千円)		7.18×10^{-3}	6.42×10^{-3}	6.45×10^{-3}	
新規購入紙削減 5%削減	実数(m ²)			35,224	31,915	-9.4	○
グリーン購入	グリーン購入対象品	目標5品目以上に対して実績 9 品目					○
	合法木材証明材	認証材90%以上に対して85%					×
二酸化炭素排出量 ※2	実数(kg-CO ₂)		1,367,773	1,218,730	1,156,809		

BM:ベンチマーク

※1 目標値を変更しないため、エコアクション2004年版の購入電力排出係数0.378kg-CO₂を使用

※2 平成21年12月28日に公表された電気事業者別のCO₂排出係数(2008年実績) 北海道電力(株)の実排出係数0.588kg-CO₂を使用

6.2 二酸化炭素排出量 評価○



重油、灯油はBMより実排出量が多い結果。重油はボイラー以外で暖房に使用されるため、重油・灯油の使用量は冬季の気温に影響される傾向にあり、使用量削減の努力はしているが増加。

軽油は実使用量では減少しているが、生産高比ではBMと同じ結果。リフト使用回数の削減の活動をしているが、木製窓部門売上増に関連するアフターメンテナンスの社有車(軽油使用)使用の影響もある。

月	気温(°C)日平均	
	2009年度	2010年度
10	12.3	11.9
11	4.3	4.4
12	0.2	-1.2
1	-1.5	-2.1
2	-2.3	-3.7
3	0.9	-0.6

* 気象庁 小樽のデータより

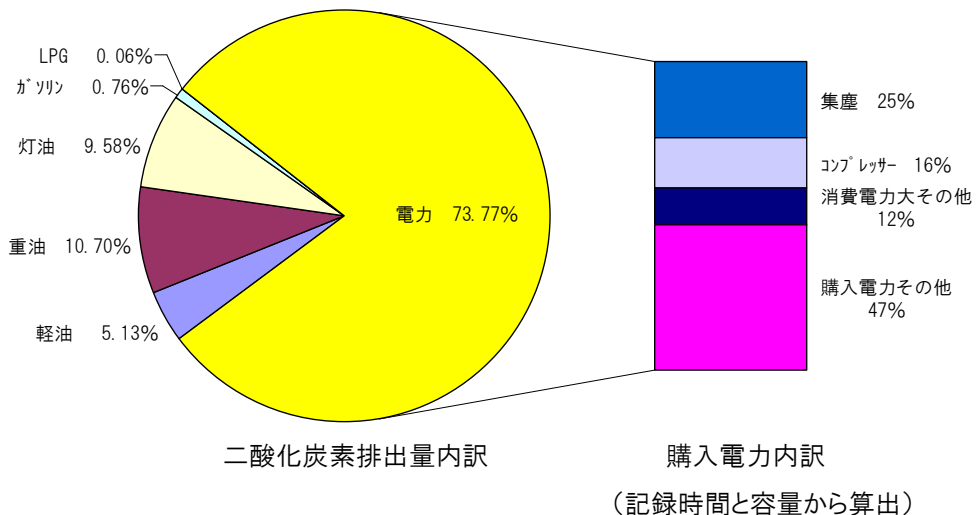
電力がBMより実使用量・生産高で削減された。

休憩時間・無作業箇所の消灯、コンプレッサ-のエア-もれの修繕
 終業5~10分前にコンプレッサ-停止・リザーバ-タンク残圧の使用。

消費電力の大きい機械について

- 一人作業から二人作業での時間短縮
- 材料の面積に対応したプレーナー機器の選択
- 使用時間の記録実施による意識づけ

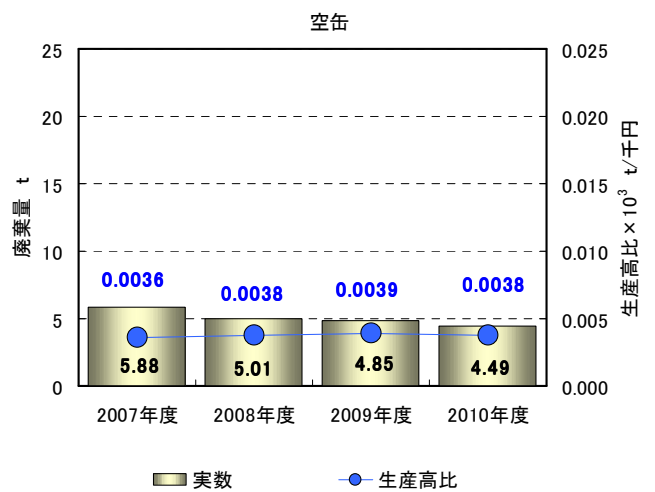
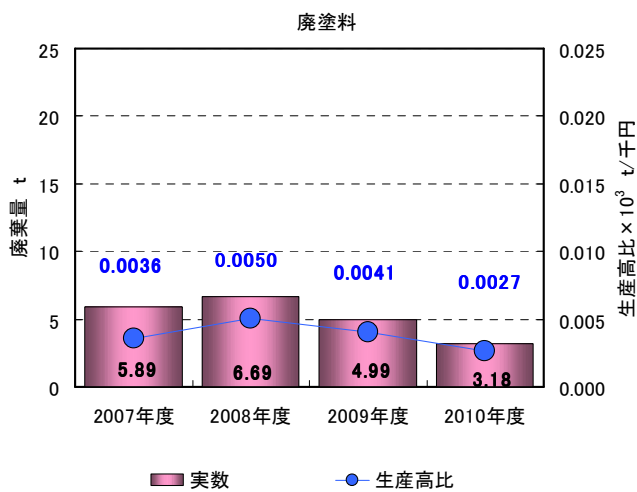
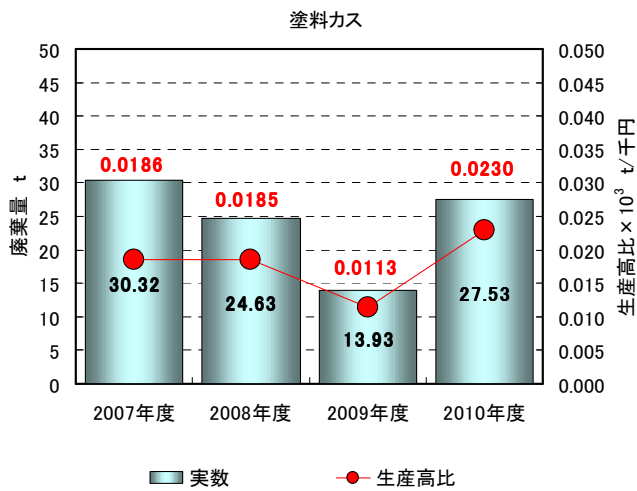
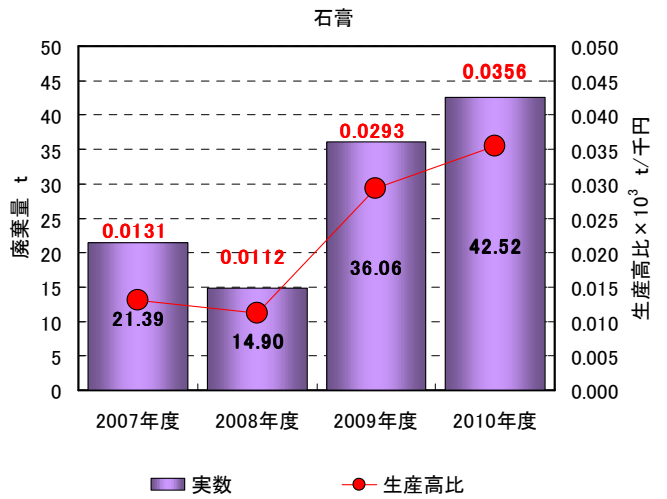
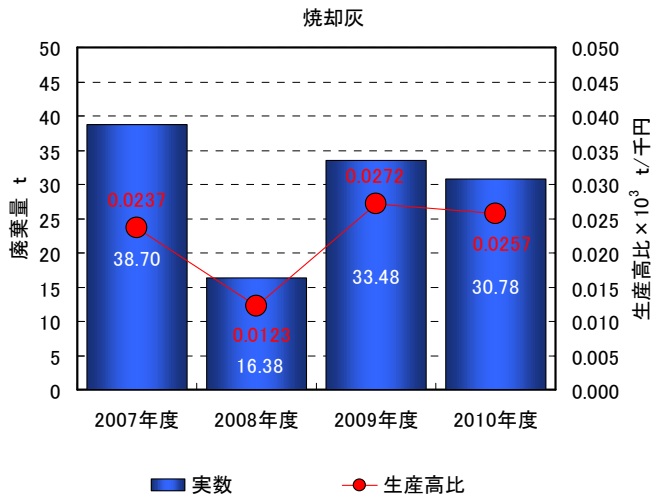
等の活動結果が反映された。

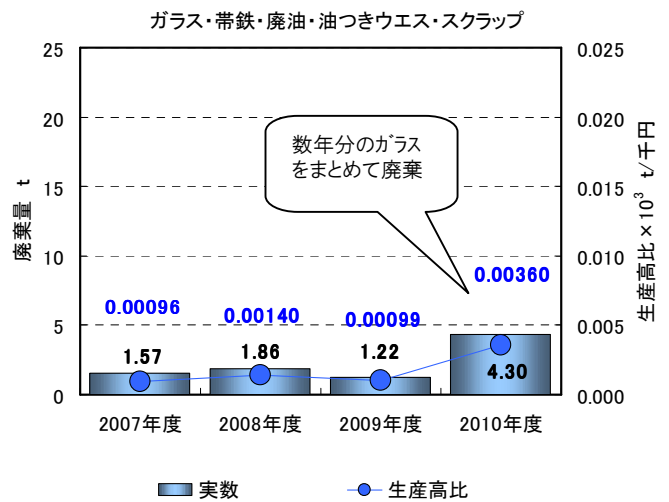
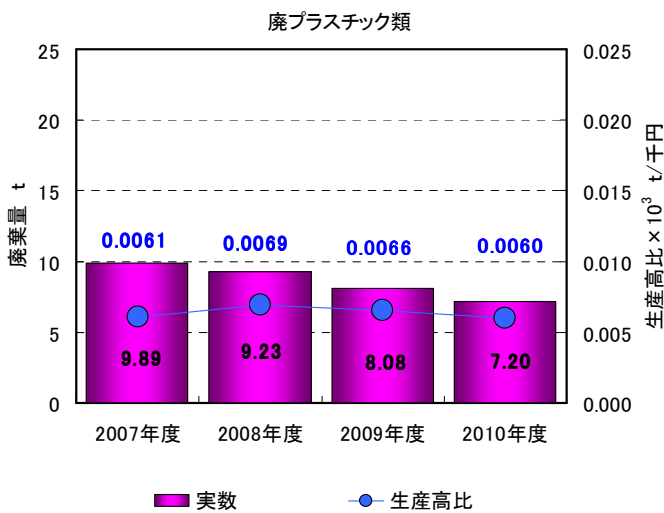
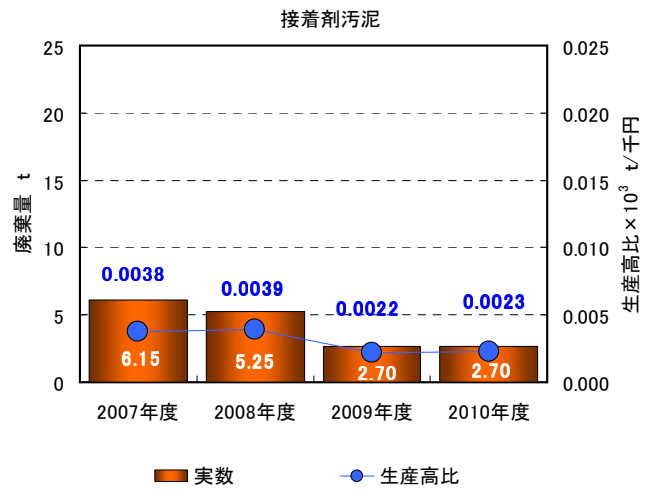
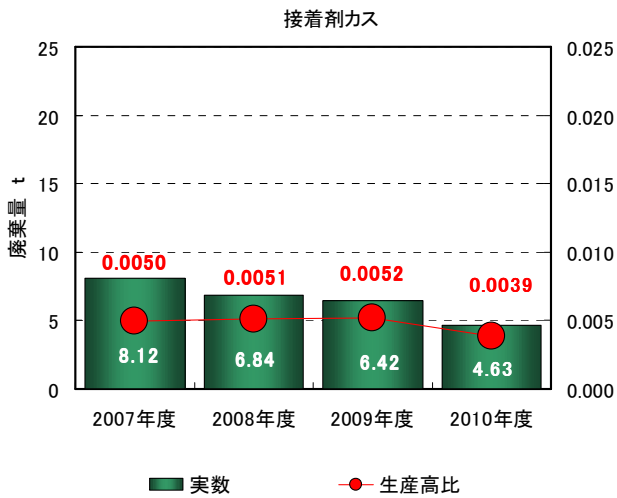


二酸化炭素排出量約74%を電力が占める中で、集塵・コンプレッサ-・その他10kWh以上の機械と残りの購入電力の割合がだいたい把握できた。購入電力の残りは一般の製造機械、暖房が含まれ、特に冬季の占める割合があるので、重油・灯油同様の影響がある。

今後の電力削減に向けて今回の記録結果を利用していく。

6.3 廃棄物排出量 評価×





廃棄物排出量はBMを再度2007年度において活動を進めたが、結果は総排出量で目標に対して×の結果。

内訳で評価すると、

焼却灰・石膏端材・塗料カスが10トン以上の廃棄量で総排出量を決定づける項目。

焼却灰は、BM,2009年度より実排出量で低下,生産高比でBMより若干高いが、2009年度より低下。

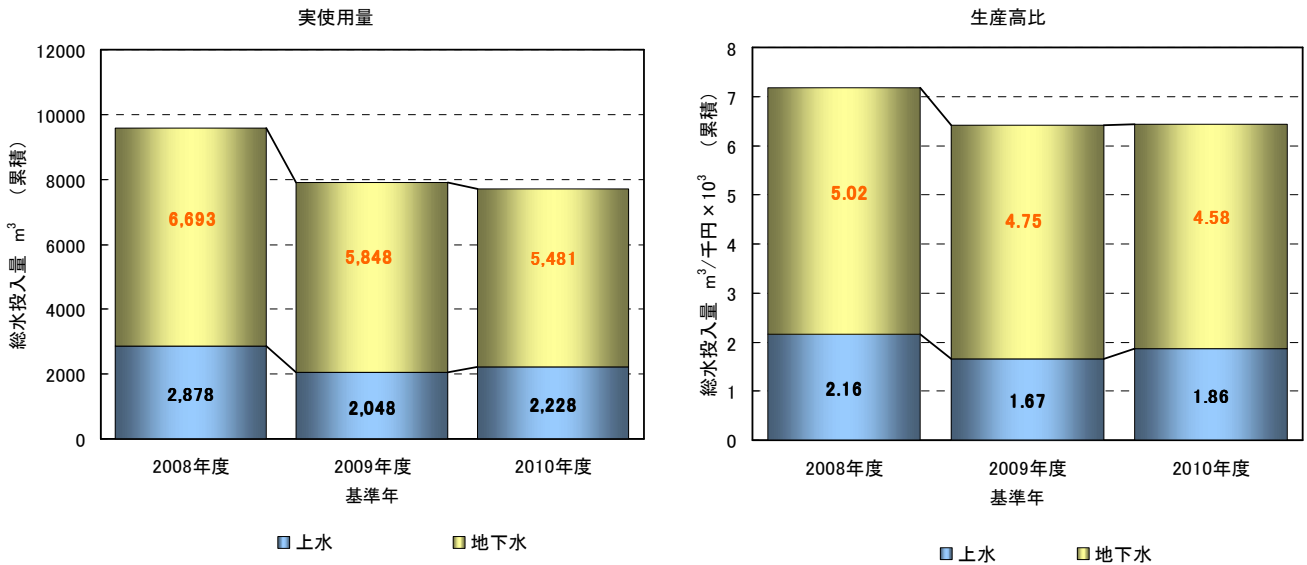
塗料カスは2009年度塗装ブス廃液の廃棄分が2010年度に入ったために2009年度より増加。BMより低い値ではあったが、評価が困難な結果。

石膏端材はBM,2009年度より実排出量、生産高比とも増加。石膏ボードを使用したパネルの形状が多品化し、購入ボードサイズから歩留まりを考慮してカットしているが、廃棄量が増加。工場全体の生産高で計算しているため、生産高の影響を受けて高い値。石膏ボードはパネル部門のみで使用しており、別途パネル部門の生産高比で計算すると2009年度とほぼ同じ値。

廃塗料は必要配合量調整、水性塗料の増加等によりBM、2009年度より低下。接着剤カスも同様に低下し、活動結果を反映している。

廃プラスチック類も、輸入シートの再利用、入荷製品のPPバンド・結束ヒモの再利用等の活動で実排出量・生産高比ともに低下の結果。

6.4 水資源投入量 評価×



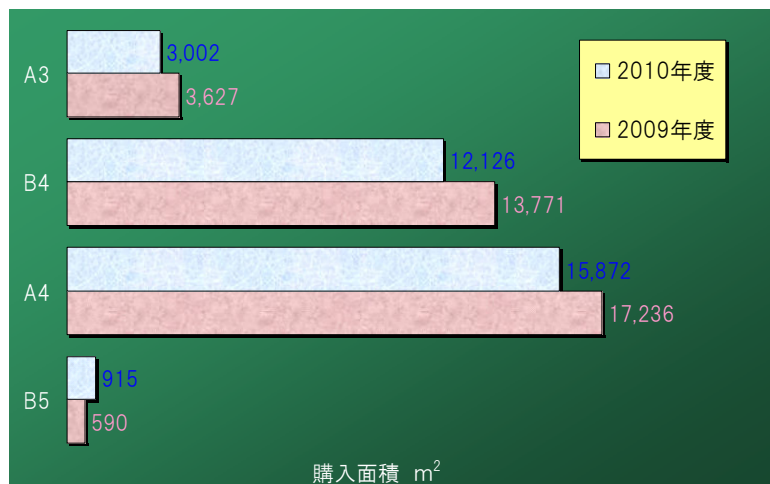
水資源投入量は、木焚きボイラーの地下水と重油ボイラー・工場使用分に分かれる。合計の実投入量は減少したが、生産高比ではほぼ横ばいの結果。2009年度は夜間の操業停止等で投入量を削減できたが、2010年度は同操業形態で大幅な削減はない結果。

活動項目のドレン水の再利用も、蒸気供給量が少なくなったためか、一部ドレン水の回収が少なくなり低下の結果。

<ドレン水再利用を展開している3部門の合計>

	2009年度	2010年度
上水使用量	24.2m ³	30.7m ³
ドレン水使用量	45.2m ³	41.5m ³
ドレン水使用率	65.1%	57.5%

6.5 新規紙購入量 評価○



新規紙の購入量は、裏紙の活用・両面コピーの推進、指図書必要部数の見直し、Nアップ等のコピー機能の活用、コピーカウント数の目標値の設定等の活動で目標値を大きく上回る結果であった。

6.6 グリーン購入品の購入

(A) グリーン対象品の購入 評価○

都度カタログをチェックし、毎月評価を行い目標値を達成

(B) 合法木材証明材の購入 評価×

目標値90%以上に対しては85%で×であるが、前年度の65%からは大幅に増加。未達については中国からの輸入品の一部に確認が出来ない品がある。非証明材は分別管理し使用。

6.7 化学物質の管理

新規購入製品(化学物質を含む)についてはMSDSを入手し、関係者に配布・説明。

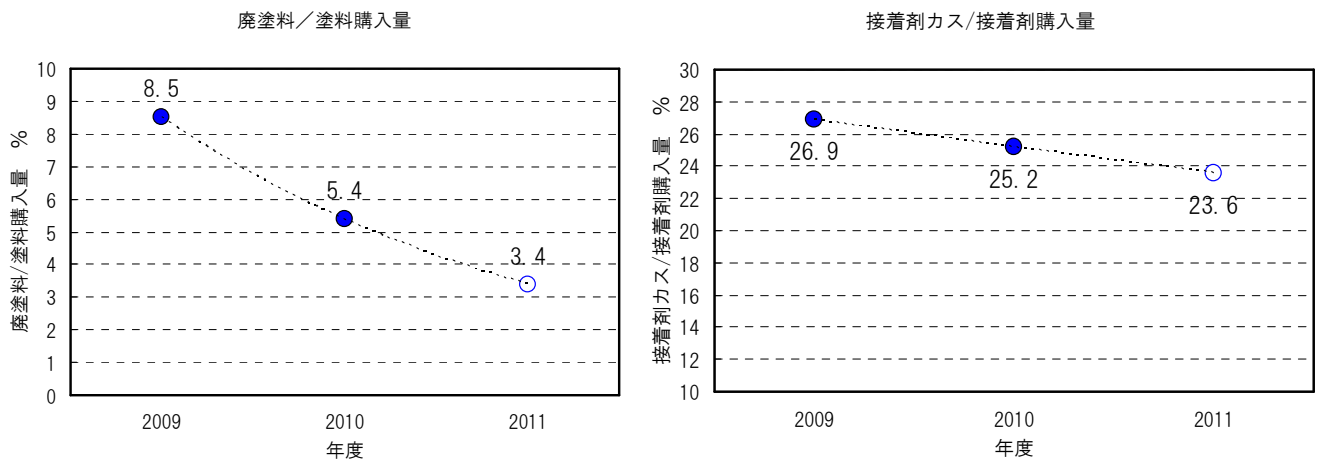
2010年度 PRTR法対象製品は2品目ありましたが、第一種指定化学物質の年間の取扱量は、0.0078トン、0.0015トンであり、報告対象外でした。

化学物質使用量削減が環境目標及び環境活動計画の策定に新規追加されたが、同性能の代替品をメーカーに打診する一方で、現状必要不可欠なため、環境目標値の数値化は行わず、適正管理とする。

それとは別に、廃棄物の項目と関連するが購入量に対する廃棄量削減を活動目標として数値化する。

対象は全ての塗料(自然系塗料を除く)、接着剤購入量に対する廃塗料、接着剤カス排出量の比率。

(塗装ブス、接着剤汚泥は除く)



6.8 社会貢献活動

- ・使用済みインクカートリッジ回収によるベルマーク運動に協力
- ・ペットボトルキャップ回収による「恵まれない子供たちを助ける」キャンペーンに協力 15.2kg提供
- ・リングプル収集による車椅子ボランティアに協力 2.7kg提供
- ・町内資源回収に協力
- ・銭函小学校の工場見学依頼により、2009年10月工場見学の実施
- ・住宅街にある社宅・テニスコート周辺の草刈・清掃の実施(毎年6月)

7. エコアクション21 1.5者監査の実施

北海道セキスイハイム共栄会所属のエコアクション21登録4社で年に一度お互いの環境活動を監査。

自社で行っていない活動アイテム等があり、今後の活動に参考となるとともに、ガイドライン2009年版への取組の意見交換が出来ました。

また、全社展開での自社内部監査実施へ向け、これまでの1.5者監査の取り組みが基礎になると思います。

8. 次年度の環境活動計画の取組内容

これまでの活動計画を継続する。

二酸化炭素排出量削減に向けてはさらに、生産効率改善活動による生産効率アップ、品質管理活動による工程内不良削減を環境活動へ取り込む。

廃棄物削減については、影響が大きい石膏ボードについて顧客に製品寸法に対する購入寸法の変更を打診する。

グリーン購入については、これまでエコマークと「グリーン購入対象品」の記述があるものを選択していたが、今後エコマークのみも品目として選択し、事務用品以外の選択幅も広げる

新しい必須項目の自らが生産・販売・提供する製品及びサービスの項目として、環境配慮型製品の製造・販売木製窓を取り上げ、受注拡大と生産効率アップでの対応を実施する。

2011年度は開始後の初期1/4期に一部生産設備の変更、木焚きボイラーの廃止となり、これまでの環境活動結果から大きく変わると予想されます。

2011年度の結果が新しいBMとなり、その時点で二酸化炭素排出量における購入電力の排出係数を変更し、新しい中期目標をたてたいと考えています。

9. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反等の指摘もありません。
又、本年度にPCBの処理を終了いたしました。

10. 銭函工場代表者による全体評価と見直しの結果

取組活動実施の2007年度及び2009年度環境負荷削減目標の対比について、廃棄物排出量2007年度対比では、ボイラー焼却灰及び石膏ボードの大幅廃棄量増により未達。この点については、来年度のボイラーの廃止による結果及び石膏ボード製品仕様寸法の見直し等を取引先と再検討し、来年度の削減改良に活動を進めることが必要。

一方、二酸化炭素排出量・紙の使用量の2009年度対比については微少では有るも削減の活動が出来ているが、水資源投入量は若干増加。来年度の中期目標に向かって更なる各部門単位(レイアウトの変更等)での積極的な削減活動を期待します。